

令和7年度 板橋区立美術館運営協議会 会議概要

開催日時	令和8年1月23日(金) 13時30分から15時
開催場所	板橋区立美術館講義室
出席者	17人 【委員】貝塚委員、返町委員、藤田委員、降旗委員、前山委員、安村委員、山崎委員 【区職員】坂本区長、平岩区民文化部長、高田文化・国際交流課長、松岡美術館長、大沼館長代理、弘中副館長、植松学芸員、印田学芸員、高木学芸員、村内学芸員
会議の公開 (傍聴)	公開(傍聴できる) 部分公開(部分傍聴できる) <u>非公開(傍聴できない)</u>
傍聴者数	0人
議題	1 報告事項 令和6年度 事務実績報告 2 審議事項 ① 令和8年度 展覧会展示計画及び概要 ② 令和8年度 展覧会内容 ③ 令和8年度 教育普及事業計画
配付資料	① 令和7年度「板橋区立美術館運営協議会」次第 ② 令和7年度「板橋区立美術館運営協議会」委員名簿 ③ 令和6年度 事務実績(総括) ④ 令和6年度 美術館展覧会観覧者数 ⑤ 令和6年度 教育普及事業実績 ⑥ 令和8年度 年間展示計画 ⑦ 令和8年度 展覧会概要 ⑧ 令和8年度 教育普及事業計画
所管課	区民文化部 文化・国際交流課 美術館 3979-3251

議事状況
(会議概要)

(司会：高田文化・国際交流課長)

【委員委嘱】

【区長挨拶】

【会長互選】

※出席委員の推薦及び総意により、返町委員に会長をお願いすることとなった。また、会長の職務代理には返町会長の指名により安村委員をお願いすることとなった。以下会長を進行役とし議事進行した。

返町会長（以下、会長）：それでは、改めて議事に入らせていただく。

【報告及び審議事項】

（松岡館長が資料（資3から資5）に基づき「令和6年度事務実績」について説明。館長、館長代理、副館長及び各担当学芸員が資料（資6から資8）に沿って展覧会及び教育普及事業の内容を説明）

●意見・質疑

（外国人の観覧者について）

委員：「エド・イン・ブラック」展を知り合いのカナダ人にお勧めしたところ、別の外国の方も連れてきて、本人も友達も凄く面白かったとのことだった。外国の人にも受けた展覧会だった。

館長：外国の方はそれなりによくいらっしやっている。インターネットで調べてくる。日本人だと遠いからやめようとなるが、かえって旅行者の方が面白いものがあれば、インターネットの情報をもとに来館するという傾向が強まっている。

（当館の特徴と評価について）

委員：焼絵展はすでに業界で大変評判となっている。この美術館の特徴として、中規模館・大規模館でできないが公立館としてやらなくてはいけないようなテーマを作って着実にやってきた。それが評価されて、巡回するようになってきている。「19世紀のやまと絵」についても、やまと絵を19世紀に絞ることで、美術史で扱っていなかった近代の日本画につながるところが埋まってくる。専門家が評価することを続けて板橋区立美術館の評判ができてきたので、行政の方にご理解いただきたい。さらに、調査費用がかかることに加え、最近は運送費も凄く上がっていることも行政の方にご理解いただいて、この活動を続けていただきたいと思う。

(強みや魅力の伝え方について)

委員：大変いい企画が続いている。内容がしっかりした研究に基づいていることが評価できる。「エド・イン・ブラック」展に続いて、今度「焼絵 茶色の珍事」展が開かれるということで、色で企画するということを深掘りしていくことが見られるようになってきたと強く感じた。ポスターが届き開けた瞬間に、これは絶対入るなど確信した。ビジュアルはすごく重要であり、サブタイトルの「珍事」という言葉の響きも大変面白い。

板橋区立美術館は、小さいけれども質の高い展覧会で、視点の取り方も面白い。アットホームな中で質の高い展覧会を深掘りしているという懐の深さがあり、それが強みであり魅力である。なぜこのような企画を考えたのかということが展示の最初のところにあると、生の学芸員が企画したことや、深く研究して時間をかけて調査していい展覧会になったことが伝わると思う。

(学芸員の業務量について)

委員：年間4本、5本の展覧会という美術館が多い中、軽重はあるにしても9本、しかも巡回と言っても受け皿ではなく、作ってここから発信して巡回させている。長い期間かけて研究したものが、展覧会として結実していくということは、展覧会業務以外に、ほかの研究もしているということである。学芸員も決して多くはないので、組織が心配である。

(「戦争と子どもたち」展の内容について)

委員：「戦争と子どもたち」展を、何人かの方にお声がけした。異口同音に、自分たちの幼いころの思い出を探られたようで、感動したとのことだった。図録を拝見したら、小学校3年生で昔の生活を知るという単元があるのだが、それに合致している絵が多かった。こうしたものが地域でも失われている中、小学校にも周知できれば、学習に繋がっていくと思う。

委員：「戦争と子どもたち」展に、寺田政明先生が若いころに描いた紙芝居の絵があった。よく残っていたし、よく見つけてきたなど感心した。

(展覧会の主催者について)

委員：空間が限られていることをどうするかについて、ポジティブに取り組んでいる板橋、練馬、松濤といった区立美術館に注目している。

展覧会の主催者について、絵本の展覧会に JBBY (一般社団法人日本国際児童図書評議会)、「焼絵 茶色の珍事」展に毎日新聞、「19世紀のやまと絵展」に東京新聞とあるが、どういう関係性か。

館長：巡回展の形をしている展覧会は、当館の企画展である。まず、こういう展覧会をやりたいというアイデアがあって、運営していくうえで、区が

直営でやるとできないことがいくつかある。それを解決するために、この
展覧会であればここが引き受けてくれるのではないかと、事務局をやっ
てくれるところを毎回探し、新聞社や JBBY に入ってもらっている。

ポローニャ展では、JBBY が子どもの本の関係者である出版社、翻訳者、
イラストレーター、図書館の人などが入るネットワークになっていること
から、事務局をやってもらっている。ポローニャ展は、最初は民間の企画
会社に事務局を置いていたが、2000 年頃から JBBY が事務局を引き受けて
いる。今、JBBY と区役所自体も様々な交流をしており、絵本を使って板
橋区というまちをブランディングしていこうという「絵本のまちいたば
し」がアクティブに動いている中、JBBY や JBBY に所属している関係者に
協力をしていただくこともある。

(ポローニャ展と保育者をめざす学生について)

委員：例年、ポローニャ絵本原画展を拝見している。私は現在幼児教育の学
部で授業をして、保育者をめざす学生たちに、どんな絵本があるという話
をする機会もある。私は表現者という立場から絵本作品を見る機会が多
いが、保育者をめざす学生は、出来上がった絵本をどう使うか、それを鑑
賞する子どもたちから見て絵本とはどういうものなのかというところを
見ている。ポローニャ絵本原画展が、違った目線で絵本と関わっている人
間に、世界には様々な絵本があるのだともっと知っていただく機会や、新
しい刺激をもらえるようなきっかけになればと思っている。

(教育普及について)

委員：美術においても少子高齢化ということで、人数的に先細りになってい
く状況で、特にこれからの若いお子さんたちに、機会を作ってくれること
は重要なことであり、頑張っていたきたい。

(「さわる絵本」の取組みについて)

委員：保育園児には動きがあったり触れたりするものが必要なので、さわる
絵本をこれからお作りになるのは大変いいことである。私が勤務する美
術館では、去年、キッズルームを作った。近隣の保育園にも声をかけて、
結構利用は多い。触れるものは怪我しないような木製を基本にした遊べ
るルームになっており、2・3歳でも喜んでる。小学校になると知恵がつ
くので、それ以前に美術体験として「さわる絵本」は非常に重要だと思う。
どんどん進めていただければと思う。

館長：小さい子どもたちに、最初の美術体験として触ってもらいたいという
こともあるが、当館でまだ足りていない部分として、インクルーシブとい
うことで、見えない方、聞こえない方、聞きにくい方など様々な特性を持

った方にどういったことができるかと考えた中で、見つけたものがイタリアの「さわる絵本」ということである。触察は人間の根源にある感覚だが、今、コンピュータ上で全部できて、触って感じるということが少なくなっている中で、もう一回そこに立ち帰ってみる。「さわる絵本」は、見える方も見えない方も見えにくい方もイーブンに楽しめ、あらゆる人たちがそれぞれの感覚で楽しめる体験を提供することができる。小さな一歩ではあるが、板橋区立美術館として取り組んでいきたい。

委員：幼稚園でも保育園でも、保育者は手作り教材をよく作るので、「さわる絵本」を作ってみるということが、保育者にとってはその仕事につながる非常に重要な研修の一つになる。保育者は美術の専門家ではないので、こうした方法だったら専門的な技術がなくてもできるとか、保育者の立場からこういうものだったら子どもたちが喜んでくれるのではないかとか、学びの機会を作れる可能性があるので、期待している。

委員：博物館法の改正や、多様性や包摂などへの配慮など、美術館において教育普及にしわ寄せが来ていると感じる。これだけの展覧会をやって、「さわる絵本」の企画や教育普及をやるのは、大変な作業だと思う。「さわる絵本」の取組みについては、最初に趣旨というものを丁寧に作っておいた方がいい。

すでに「さわる絵本」を60冊程度所有しているということだが、収蔵作品、資料、教材というような美術館の中での位置づけはどのようになっているのか。

館長：所有している「さわる絵本」は、展覧会の実施にあたり書籍を買ったり、絵本の展覧会だと絵本をたくさん買ったりするのだが、それらと同じような位置づけである。特に登録をしているものではないが、リスト化はしていこうと考えている。これらを借りたいという話も結構いただいており、最近だと北区の浮間中学校が、当館が貸し出した「さわる絵本」を使って授業を行い、3年生が半年くらいかけてさわる絵を作ったということがあった。折に触れて、大学に貸し出しもしている。展覧会の中では、館蔵品展の枠組みで展示したことはあるが、当館には日常的に展示するスペースがないので、「さわる絵本ひろば」という事業を先日初めてやってみた。テーブルの上に絵本をいっぱい並べて、一日、「みなさん見たい人はどうぞ見てください」という形で実施したところ、関心のある方がかなり集まり賑わっていた。

今後、「さわる絵本」を体系立てて集めることは、簡単に流通しているものではないので難しいが、買える状態にあったときに、購入しストック

しておく。イタリアの本なので、イタリアの点字とイタリア語で書いてあり、それを日本語の点字と日本語の墨字に変えないとなかなか使えないといったハードルも高い。2020年の展示会の際には、筑波の盲学校の方や筑波大の学生などに協力をしていただき、そのとき買ったものは、日本語の点字と墨字に貼り替えてある。そのあとは簡便な翻訳をつけることはしているが、点字を貼り替えることまではできておらず、今後、予算取りして整理していくことも必要だと考える。いずれにしてもかなり丁寧にやらなくてはいけないことであり、時間がかかるかと思っている。

委員：スケジュールをしっかりと決めており、試験的にやって、様々な人たちの意見を聞いて進めていくということなので、期待している。

(公立美術館について)

委員：私は私立美術館に33年いて、公立美術館に来て3年である。私立と公立の違いは様々あるが、公立は新しいことを始めることが下手で、もっと下手なのはやめること。これをやるならこれをやめるというバーターがないと、現場は疲弊してくる。組織として、やめる勇気は重要である。

館長：変わることに對して私たちの中では全く躊躇はない。その時代やニーズに合わせて、様々なことを試してみても、去年とぴったり同じことをやる必要はないと思っている。どうしても会期や予算といった与えられた範囲はあるけれども、その中で何が適正なのか考えつつ活動している。

委員：公立館では、様々な方がおっしゃることに誠実に対応してはいけないのだけれども、言っていただくのはいいことではあるが、すべての意見を聞き入れるとパンクしてしまうので、悩んでいるところである。

館長：当館の場合、改修前に行った「あり方検討」というものがあり、今までやってきたことと、今後やらなければいけないことを整理し、検討・決定していただいたという経緯がある。その中に載っていることを我々はやっていくということになっている。当館のやるべきことは、区役所内でかなり共有していただいていると感じている。

会長：これで令和7年度板橋区立美術館運営協議会を終了する。

[閉 会]

会議の概要は、以上のとおりである。

令和7年度板橋区立美術館運営協議会次第

日時：令和8年1月23日（金）

午後1時30分

場所：板橋区立美術館講義室

- 1 開 会 司会：文化・国際交流課長
- 2 委 嘱 式
- 3 区長挨拶
- 4 各委員紹介
- 5 会長互選及び職務代理指名
- 6 会長及び職務代理挨拶
- 7 議 事
 - (1) 報告事項 (美術館長)
令和6年度事務実績報告
 - (2) 審議 (美術館長)
 - ①令和8年度展覧会展示計画及び概要 (各担当学芸員)
 - ②令和8年度展覧会内容 (担当学芸員)
 - ③令和8年度教育普及事業計画
 - (3) その他
- 8 閉 会

令和7年度「板橋区立美術館運営協議会」委員名簿

(五十音順)

氏名	現職等	専門分野
貝塚 健	千葉県立美術館館長	近現代美術
岸 ュキ	画家・女優	絵画
佐藤 道信	東京藝術大学美術学部名誉教授	近代美術
返町 勝治	板橋区美術家連盟代表	絵画
成澤 勝嗣	早稲田大学文学学術院教授	近世美術
藤田 寿伸	東京成徳大学子ども学部子ども学科准教授	美術教育
降旗 千賀子	&4+doキュレーター	美術教育
前山 裕司	元新潟市美術館特任館長	近現代美術
安村 敏信	(一財)北斎館館長 静嘉堂文庫美術館館長	近世美術
山崎 洋子	元カフェボローニャ代表	地域文化

任期:令和7年11月1日～令和9年10月31日

令和6年度事務実績（総括）

1. 展覧会観覧者数

6年度		5年度		4年度		3年度	
9本	64,495	9本	42,809	9本	34,932	9本	31,656

2. 教育普及事業参加者数

(1) 展覧会にかかる講演会・イベント等

6年度		5年度	4年度	3年度
講演会	847	499	156	33
イベント	493	441	521	149
計	1,340	940	677	182

(2) 各種技法講座・教室・各アトリエ

*印は美術鑑賞教室を再掲

6年度		5年度		4年度		3年度	
33回	1,282	40回	1,937	30回	1,424	11回	726

*幼保4園・小9校・
中1校17回875人

*幼保4園・小12校・ *保2園・小7校・ *小6校8回 697人
中3校24回1,543人 中2校19回1,038人

3. 自主サークル支援事業参加者数

6年度		5年度	4年度	3年度
アトリエ	99	172	301	260
講義室	0	30	50	0
計	99	202	351	260

4. 入館者数合計(1+2+3) (重複のため小学校鑑賞教室を除く)

6年度	5年度	4年度	3年度
66,341	44,345	36,346	32,824

令和6年度 美術館展覧会観覧者数

※「シュルレアリスム展」及び「エド・イン・ブラック展」については、全期間の実績を参考に掲載しています。

展覧会名	期 間	開館日数	観覧者数	内 訳					うち招待免除	1日平均	観覧料
				幼児	小・中	高・大	一般	高齢			
『シュルレアリスム宣言』100年 シュルレアリスムと日本	4月1日 から 4月14日	12日	6,560	32	75	558	4,782	1,113	627	547	有料
全期間(3月2日～4月14日)		38日	15,453	93	433	1,185	11,145	2,597	1,530	407	
歸空庵コレクションによる洋風画という風 —近世絵画に根づいたエキゾチスム—	5月3日 から 6月16日	39日	4,639	106	117	209	2,620	1,587	/	119	無料
2024 イタリア・ボローニャ 国際絵本原画展	7月2日 から 8月12日	37日	8,859	436	676	586	6,275	886	2,232	239	有料
館蔵品展(近現代) 「もっと魅せます！ 板橋の前衛絵画 シュルレアリスムと アブストラク・アート」	8月22日 から 9月23日	29日	2,976	59	181	118	1,995	623	/	103	無料
「区民文化祭」	10月3日 から 10月27日	19日	4,128	93	428	126	1,687	1,794	/	217	無料
レオ・レオーニと 仲間たち	11月9日 から 1月13日	52日	19,383	1,063	1,375	1,098	13,826	2,021	3,782	373	有料
「区立小・中学校 作品展」	1月21日 から 2月24日	28日	9,019	427	2,607	124	4,611	1,250	/	/	無料
佐藤太清記念 中学生絵画展	2月6日 から 2月9日	4日	254	0	43	15	131	65	/	64	無料
エド・イン・ブラック 黒からみる 江戸絵画	3月8日 から 3月31日	20日	8,677	34	165	287	5,214	2,977	724	434	有料
全期間(3月8日～4月13日)		32日	16,369	51	230	532	9,708	5,848	1,382	512	
/		240日	64,495	2,250	5,667	3,121	41,141	12,316	7,365	269	/

令和6年度 教育普及事業実績

1 講演会

No.	実施月日	テーマ及び講師	参加人員	展覧会名
1	4月13日	講演会「越境するシュルレアリスム—ヨーロッパと日本」 河本真理(日本女子大学国際文化学部教授)	51	シュルレアリスムと日本
2	5月18日	講演会「江戸の洋風画と司馬江漢」 成澤勝嗣(早稲田大学文学学術院 教授)	55	洋風画という風
3	6月1日	講演会「歸空庵コレクションによる 洋風画という突風」 当館学芸員	39	
4	7月2日	講演会「ボロニャ・フルレズ・ブックフェアと国際絵本原画展」 エレナ・パゾーリ(ボロニャ・フルレズ・ブックフェアディレクター)	42	2024イタリア・ボロニャ国際絵本原画展
5	7月14日	講演会「インクルーシブな絵本づくり」 グスティ(イラストレーター、作家、2023 ボロニャ展審査員)	64	
6	7月20日	講演会「イラストレーションにおける人間の技術と美学—ボロニャ展審査と今後の展望」 イ・ホバク(絵本作家、編集者、2024 ボロニャ展審査員)	47	
7	9月7日	講演会「1930年代日本の「前衛」地図—抽象とシュルレアリスムへ」 谷口英理(国立アートリサーチセンター 主任研究員)	58	もっと魅せます！ 板橋の前衛絵画
8	11月9日	講演会「レオ・レオーニの孫と生まれて」 アニー・レオーニ(レオ・レオーニ令孫)	65	レオ・レオーニと仲間たち
9	11月10日	講演会「レオ・レオーニ:根っこと枝—レオーニ絵本を中心に」 レナード・マーカス(児童書歴史研究家・キュレーター)	55	
10	11月16日	講演会「レオ・レオーニと仲間たち」 森泉文美(本展企画者)	56	
11	11月30日	講演会「3回のレオーニ展からわかったこと」 当館館長	56	
12	3月15日	講演会とワークショップ「手と目で楽しむさわる絵本の世界」 講演会講師:大内進(星美学園日伊総合研究所客員研究員)、佐藤由紀子(日立市社会福祉協議会評議員、日伊協会会員)、前田善志(絵本作家、デザイナー)、山本茂康(デザイナー) ワークショップ講師:齋藤名穂(建築家、デザイナー、UNI DESIGN)、さわせたり(美術家)、半田こづえ(明治学院大学非常勤講師)、平紋(デザイナー、ものづくりワークショップデザイナー)、古屋祥子(彫刻家、山梨県立大学准教授)	81	—
13	3月16日	講演会「『墨』:日本美術のなかの黒」 島尾新(元学習院大学教授、『国華』編集委員)	89	エド・イン・ブラック
14	3月29日	講演会「黒からさぐる江戸絵画」 当館学芸員	89	
合 計			847	

2 イベント

No.	実施月日	イベント内容、テーマ及び講師	参加人員	展覧会名
1	7月6日	トークイベント「ポローニャ展入選者に聞く」 小野寺美帆、松井あやか、矢部雅子	54	2024イタリア・ポローニャ国際絵本原画展
2	7月7日	トークイベント「さわって楽しむ作品づくり イタリアにおけるワークショップ報告」 齋藤名穂(建築家、デザイナー)、のだよしこ(イラストレーター)、まえたよしゆき(絵本作家、デザイナー)、森本康之(彫刻家、修復家)、山本茂康(デザイナー)、森泉文美(ポローニャ展コーディネーター)	52	
3	7月15日	対談「社会的インクルージョンと美術館の役割」 グステイ(イラストレーター、作家、2023 ポローニャ展審査員／アルゼンチン出身)、中津川浩章(美術家・アートディレクター)	43	
4	8月11日	対談「2024ポローニャ・チルドレンズ・ブックフェア総復習」 広松由希子(絵本評論家)、当館館長	51	
5	11月17日	シンポジウム「未来派とレオーニ」 太田岳人(千葉大学非常勤講師)、藤田寿伸(東京成徳大学子ども学部准教授)、室賀清徳(編集者、デザイン評論) モデレーター:森泉文美(本展企画者)、当館館長	35	レオ・レオーニと仲間たち
6	11月23日	対談「極私的レオーニ絵本論」 広松由希子(絵本評論家)、当館館長	49	
7	6月8日	ワークショップ 洋風画を楽しむワークショップ 当館学芸員	16	洋風画という風
8	9月21日	ワークショップ 板橋のシュルレアリスムとアブストラクト 当館学芸員	16	もっと魅せます！ 板橋の前衛絵画
9	3月9日	ワークショップ ようこそ 墨一色の豊かな世界へ 小林東雲(水墨画家)	13	エド・イン・ブラック
10	5月11日	当館学芸員によるギャラリートーク	15	洋風画という風
	5月25日		24	
	8月24日		36	もっと魅せます！ 板橋の前衛絵画
11	9月14日	当館学芸員によるスライドトーク	21	エド・イン・ブラック
	3月22日		68	
合 計			493	

3 技法講座・教室・各アトリエ

No.	事業名	内 容	講 師	実施回数	人員
1	技法教室 「しかけ絵本をつくらう」	モチーフがしっかり飛び出す絵本を制作する。(対象:小学生)	岡村志満子 (グラフィックデザイナー、絵本作家)	7月27、28日 (全2日間)	16
2	技法教室 「絵本の旅」	ユニークな絵本を作る講師とともに、グループワークなどを交えながら、それぞれに絵本を制作する。(対象:イラストレーターまたはイラストレーターをめざす方)	ハリエット・ヴァン・レーク(絵本作家)	8月2～4日 (全3日間)	19
3	技法教室 「ティーンズ 絵本のアトリエ」	絵本について学び、それぞれの絵本を制作する講座。(対象:中高生)	なかむらしんいちろう (絵本作家、日本児童教育専門学校専任講師)	8月6日 (全1日間)	4
4	こどもアトリエ	幼児(3歳)から小学生がさまざまなジャンルのアーティストによる指導のもと親子で楽しみながら造形体験をするワークショップ。	のぐちようこ、すぎはらけいたろう、あいざわふみ、チャン・ヨンス、アンドレ・レトリア、山本茂康	4月21日、5月19日、7月21日、8月10日、11月24日、2月23日 (1日2回×6日) 全12回	349
5	夏のアトリエ	イラストレーターを対象に、絵本制作の総合的・専門的な指導を行う。	グステイ (イラストレーター、作家、2023ポローニャ展審査員)	7月9日～13日 (全5日間)	19
合 計					407

4 美術鑑賞教室

No.	イベント名	内容・講師	実施月日	参加人員	開催展覧会	
1	小学生鑑賞教室 (志村第一小4年生)	内容:児童・生徒が美術作品を美術館で実際に見ることで、興味を引き出し、作品の美しさや面白さを感じる機会とする。 講師:当館学芸員	6月28日	60	2024イタリア・ボローニャ国際絵本原画展	
2	小学生鑑賞教室 (中台小5年生)		9月10日	60	もっと魅せます！板橋の前衛絵画	
3	保育園鑑賞教室 (ハネッセ前野町保育園)		11月20日	13	レオ・レオーニと仲間たち	
4	保育園鑑賞教室 (しらさぎ保育園)		12月5日	53		
5	保育園鑑賞教室 (麦の子保育園)		12月11日	25		
6	保育園鑑賞教室 (しらさぎ保育園)		12月12日	26		
7	小学生鑑賞教室 (中根橋小4年生)		12月13日	44		
8	中学生鑑賞教室 (板橋第一中 オリエンティング参加者)		12月13日	24		
9	中学生鑑賞教室 (板橋第一中 特別支援学級)		12月13日	16		
10	小学生鑑賞教室 (志村第一小3年生)		12月17日	72		
11	小学生鑑賞教室 (緑小3年生)		12月18日	63		
12	小学生鑑賞教室 (向原小3年生)		12月20日	66		
13	保育園鑑賞教室 (にじいろ保育園徳丸)		12月26日	18		
14	小学生鑑賞教室 (桜川小3年生)		1月31日	107		小・中学校 作品展
15	小学生鑑賞教室 (板橋第八小3年生)		2月18日	59		
16	小学生鑑賞教室 (板橋第六小3年生)		2月20日	80		
17	小学生鑑賞教室 (下赤塚小3年生)		3月13日	89	エド・イン・ブラック	
		合 計	875			
		(内訳)	児童・生徒	809		
			引率	66		

令和8年度 年間展示計画

会 期	展 覧 会 名	概 要	料 金
3月7日(土) ～ 4月12日(日) 【32日間】	焼絵 茶色の珍事	熱した鉄筆や鑊を紙や絹などに押し当て、絵画や文字を焦がして表現する技法「焼絵」を初めて本格的に取り上げた展覧会。江戸時代には、稲垣如蘭のような藩主クラス、さらに浮世絵師などもこの技法を試みました。日本をはじめ、優れた作品が展開した朝鮮・中国、現代の焼絵も紹介します。	有料
4月24日(金) ～ 6月14日(日) 【45日間】	館蔵品展 東京アトリエ探訪 —画廊・アトリエ村・ 美術学校— 特集展示 生誕120年 小牧源太郎	戦前から戦後にかけて、東京で盛り上がりを見せた画廊やアトリエ村、美術学校に焦点を当て、所蔵作品を紹介しします。同時に本年が生誕120年となる小牧源太郎の作品と資料を紹介しします。	無料
7月8日(水) ～ 8月16日(日) 【35日間】	2026イタリア・ボローニャ国際絵本原画展	今回で開催60回目を迎えるイタリア・ボローニャ市で毎年開催されている世界最大の規模を誇る絵本原画コンクール。世界中の新人イラストレーターの登竜門とされている国際コンクールの入選作品を展示しします。板橋では46回目を迎えます。	有料
8月29日(土) ～ 9月27日(日) 【26日間】	館蔵品展 さっぱり こってり 江戸絵画	江戸時代には、多種多様な画風の作品が生み出され、かつてないほど絵画表現が広がりました。本展では、「さっぱり」「こってり」という対比的なキーワードを軸に、またそれらが混じり合い新たな表現へと発展した、江戸絵画の豊かさと面白さについてご紹介します。	無料
10月8日(木) ～ 11月1日(日) 【19日間】	区民文化祭	区民書道展 [10/8～10/11] 4日 美術家作品展 [10/14～10/18] 5日 区民美術展 [10/21～10/25] 5日 書家作品展 [10/28～11/1] 5日	無料
11月21日(土) ～ 1月11日(月・祝) 【39日間】	コッライーニの 絵本づくり(仮称)	アートに関する多様な本を手掛け、ギャラリーおよび出版社として活動する、イタリア北部の古都マントヴァを拠点とするコッライーニ出版を紹介する展覧会です。ブルーノ・ムナーリをはじめとした様々なクリエイターたちとコッライーニによる絵本づくりを紐解きつつ、2004年より続く板橋区立美術館との関わりも振り返ります。	有料
1月19日(火) ～ 2月23日(火・祝) 【27日間】	区立小・中学校 作 品 展	中学校作品展 [1/19～1/31] 12日 小学校児童作品展 [2/6～2/23] 15日	無料
2月11日(木・祝) ～ 2月14日(日) 【4日間】 場所:成増アートギャラリー	佐藤太清記念 中学生絵画展	佐藤太清記念青少年美術奨励基金条例に基づき、全国の中学生の絵画作品を広く公募し、展示。	無料
3月6日(土) ～ 4月18日(日) 【38日間】	19世紀のやまと絵展 (仮称)	19世紀には、日本古来の美しさを探究したやまと絵が描かれました。古典的なやまと絵を得意とした「復古やまと絵派」の絵師たちとともに、狩野派や土佐派、住吉派、原派、谷文晁、酒井抱一などの作品も紹介し、江戸と京都における復古的な流行の様相を検証しします。	有料

「^{やきえ}焼絵 茶色の珍事」

趣 旨 「焼絵」とは、熱した鉄筆や鋺を紙や絹などに押し当て、絵画や文字を焦がして表現する技法です。燃えやすい素材に火で絵が描けるとは信じがたいかもしれませんが、しかし、本展でご紹介する作品は、水墨画さながらに線描から点描、濃淡といった表現が巧みになされています。平安末～鎌倉時代頃の文献には「焼絵」の記述が確認できますが、現存作例は江戸時代以降になります。藩主や家老の間で密に行われ、浮世絵師などもこの技法を試みました。

茶色を基調とした焼絵は、ぱっと見は華やかと言い難いものです。しかし、味わうほどに滋味深く心焦がれるような魅力を秘めています。焼絵を初めて本格的に取り上げる本展では、日本をはじめ、朝鮮、中国、現代の作品を展示し、その独特の美しさ、制作背景などをご紹介します。

会 期 令和8(2026)年3月7日(土)～4月12日(日)【32日間】

開館時間 9:30～17:00 (入館は16:30まで)

休 館 日 月曜日

主催・会場 板橋区立美術館、毎日新聞社

観 覧 料 一般900円、大学生600円、高校生以下無料

関連イベント 講演会、ワークショップ、美術講座、ギャラリートーク、小学生鑑賞教室

展示点数 掛軸、屏風 など約100点

巡 回 中之島香雪美術館
令和8(2026)年4月28日(火)～5月31日(日)

館蔵品展「東京アトリエ探訪 —画廊・アトリエ村・美術学校—」

特集展示 生誕 120 年 小牧源太郎

趣 旨 「池袋モンパルナス」を象徴するアトリエ付き住宅は、1920 年代から 40 年代にかけて、池袋駅から現在の椎名町、千川駅にかけての地域に多い時には数百棟もあったと言われています。もっと広く東京の街を眺めてみると、画廊が立ち並ぶ銀座に加え、落合、田端、そして美術館や美術学校のある上野周辺にも芸術家や文学者たちが暮らし、集まりました。

1945 年、東京大空襲によって多くの地域が焼け野原になった後にも、池袋をはじめ、画家たちのコミュニティは再建されていきます。下落合にアトリエを構えた阿部展也のアトリエには、芥川（間所）沙織や漆原英子といった若手画家たちが通いました。

さらに時代は過ぎて 1960 年代、新宿に暮らす芸術家、吉村益信の自邸「ホワイトハウス」には、篠原有司男をはじめ、ネオ・ダダの芸術家たちが集い、イベントやパフォーマンスなどを行いました。

本展では大正から昭和の東京の街に集った芸術家たちの作品を紹介いたします。

同時に第 1 展示室では、本年生誕 120 年となる小牧源太郎の作品と資料をご紹介します。

会 期	令和 8 (2026) 年 4 月 24 日 (金) ~ 6 月 14 日 (日) 【45 日間】
開館時間	9:30~17:00 (入館は 16:30 まで)
休 館 日	月曜日 (ただし 5 月 4 日 (月) ~ 6 日 (水) は祝日のため開館し、5 月 7 日 (木) 休館)
会 場	板橋区立美術館
観 覧 料	無料
関連イベント	講演会、ギャラリートーク、小学生鑑賞教室
展示点数	油彩画、水彩画、デッサン、他、約 80 点

「2026 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」

趣 旨 イタリアのボローニャで毎年児童書専門のブックフェアが行われます。本展はこのブックフェアが主催する子どもの本のイラストレーションのコンクールの入選作品を紹介するものです。国籍の異なる5人の審査員は毎年入れ替わり、多様性を重視して選考されます。また、出版・未出版を問わず応募できるため新人作家の登竜門としても知られ、多くの絵本作家を輩出してきました。

板橋での開催は1981年に始まり、来場者には若者や家族連れも目立ち、またイラストレーターや出版関係者が多く訪れることも本展の特徴です。会期中には子どもや作り手に向けた講座やワークショップも予定しています。

会 期 令和8(2026)年7月8日(水)～8月16日(日)【35日間】

開館時間 9:30～17:00 (入館は16:30まで)

休 館 日 月曜日(ただし7月20日(月・祝)は開館し、7月21日(火)休館)

主催・会場 板橋区立美術館、
JBBY(一般社団法人日本国際児童図書評議会)

観 覧 料 一般900円、大学生600円、高校生以下無料

関連イベント 講演会、ワークショップ、小学生鑑賞教室

展示点数 入選作品約400点

巡回予定 西宮市大谷記念美術館、石川県七尾美術館

館蔵品展

「さっぱり こってり 江戸絵画」

趣 旨 江戸時代には、多種多様な画風の作品が生み出され、かつてないほど絵画表現が広がりました。とりわけ、江戸狩野派の祖である狩野探幽による軽みのある画風は、江戸時代を代表する様式となりました。淡白で筆数を抑え、余白を生かしたそれらの作品は、端的に言う「さっぱり」しています。

一方、18世紀以降に台頭した民間画壇では、それらを基盤としつつ、新たな画風を追求する流れもありました。なかでも中国の花鳥画に倣った南蘋派や、西洋の銅版画や遠近法などの影響を受けた洋風画には、さっぱりとは相反する「こってり」した濃密な作品が多く見受けられます。

本展では、「さっぱり」「こってり」という対比的なキーワードを軸に、またそれらが混じり合い新たな表現へと発展した、江戸絵画の豊かさや面白さについてご紹介します。

会 期 令和8(2026)年8月29日(土)～9月27日(日)【26日間】

開館時間 9:30～17:00 (入館は16:30まで)

休 館 日 月曜日(ただし9月21日(月)～23日(水)は祝日のため開館し、9月24日(木)休館)

会 場 板橋区立美術館

観 覧 料 無料

関連イベント 講演会、美術講座、ギャラリートーク、小学生鑑賞教室

展示点数 掛軸、屏風 など約60点

「区民文化祭」

趣 旨 広く区民の美術・書道の普及、発展を図るため、区民参加による展覧会を開催します。

会 期 令和8(2026)年10月8日(木)～11月1日(日)【19日間】

(1) 区民書道展 10月8日(木)～10月11日(日)【4日間】

(2) 美術家作品展 10月14日(水)～10月18日(日)【5日間】

(3) 区民美術展 10月21日(水)～10月25日(日)【5日間】

(4) 書家作品展 10月28日(水)～11月1日(日)【5日間】

主 催 板橋区

共 催 板橋区文化団体連合会、板橋区書道連盟、板橋区美術家連盟、
(公財)板橋区文化・国際交流財団

会 場 板橋区立美術館

観 覧 料 無 料

「コッライーニの絵本づくり」(仮)

趣 旨 「コッライーニ」は、1973年にイタリアのマントヴァでアートギャラリーとして設立し、現在は出版社としても活動しています。1980年代～90年代にかけてブルーノ・ムナーリと協働したコッライーニは、子どもに向けた絵本へ関心を深め、やがて多様な作り手たちとともに絵本を出版するようになりました。作者の自由なアイデアや創作を重視するコッライーニの絵本は、世界の児童書出版にも新風を吹き込んでいます。

板橋区立美術館は20年以上前にコッライーニと知り合い、その長年の交流は、三浦太郎やポール・コックスといったアーティストたちの介在により豊かなものとなっています。本展はコッライーニの絵本づくりを、当館の歩みと交差するところから紹介する試みです。

会 期 令和8(2026)年11月21日(土)～令和9(2027)年1月11日(月・祝)【39日間】

開館時間 9:30～17:00(入館は16:30まで)

休 館 日 月曜日、12月29日～1月3日(ただし1月11日(月・祝)は開館)

主催・会場 板橋区立美術館、
JBBY(一般社団法人日本国際児童図書評議会)

観 覧 料 一般900円、大学生600円、高校生以下無料

関連イベント 講演会、ワークショップ、小学生鑑賞教室

展示点数 絵本300点、ムナーリ他関連アーティストの作品・資料

「区立小・中学校作品展」

趣 旨 小・中学校における書道・美術・図工学習の成果を展示し、広く
区民に鑑賞の機会を設けます。

会 期 令和9（2027）年1月19日（火）～2月23日（火・祝）【27日間】

（1）中学校美術展 1月19日（火）～1月31日（日）【12日間】

（2）小学校児童作品展 2月6日（土）～2月23日（火・祝）【15日間】

開館時間 9:30～17:00（入館は16:30まで）

会 場 板橋区立美術館

観 覧 料 無 料

実施団体 板橋区教育委員会
板橋区立中学校教育研究会
板橋区教育会
板橋区立中学校教育研究会国語科研究部
板橋区立中学校教育研究会美術科研究部
板橋区教育会書写研究部
板橋区教育会図工研究部

「佐藤太清記念中学生絵画展」

趣 旨 青少年の美術教育の一層の充実を図るため、佐藤太清青少年美術奨励基金条例に基づき、全国の中学生の絵画美術作品を広く公募し、「佐藤太清記念 中学生絵画展」を開催します。
令和8年度で第25回目の開催となります。

※同時開催していた京都府福知山市が全国の高校生・大学生から公募した絵画作品を展示する「佐藤太清賞公募美術展」の巡回展は、令和7年度で終了

会 期 令和9(2027)年2月11日(木・祝)～2月14日(日)
【4日間】

展示構成 中学生作品 42点程度
・佐藤太清賞 1点
・板橋区長賞 1点
・特 選 10点程度
・入 選 30点程度
※それぞれに賞状と記念品を授与します。

主 催 板橋区立美術館

会 場 成増アートギャラリー

観 覧 料 無 料

「19世紀のやまと絵展」(仮)

趣 旨 平安時代に成立したやまと絵は、時代とともに多様な変化を遂げました。そのなかでも19世紀のやまと絵の特徴的な動向のひとつとして、古典的なやまと絵を理想とした田中訥言、浮田一蕙、冷泉為恭といった絵師の活躍があげられます。彼らの作品は「復古やまと絵」と称され、高く評価されてきました。

これまで上記3人が特に注目されてきましたが、そもそも復古的な土壌は、18世紀末頃の寛政の御所造営や松平定信が主導した『集古十種』の編纂事業などを皮切りとし、民間にも浸透していきました。江戸では次第に古画や古物の研究がひろく流行し、京都では宮廷の主導により寺社の文化財調査も進みました。

本展覧会では、復古やまと絵の代表的な3人の絵師のみに注目するのではなく、狩野派や土佐派、住吉派、原派、谷文晁、酒井抱一といった同時代の絵師の作品も広く展示し、日本古来の美しさを探究した19世紀のやまと絵の様相をご紹介します。

会 期	令和9(2027)年3月6日(土)～4月18日(日)【38日間】
開館時間	9:30～17:00(入館は16:30まで)
休 館 日	月曜日(ただし3月22日(月・祝)は開館し、3月23日(火)休館)
主催・会場	板橋区立美術館、東京新聞
観 覧 料	一般900円、大学生600円、高校生以下無料
関連イベント	講演会、ギャラリートーク、小学生鑑賞教室
展示点数	屏風、掛軸など約60点
巡回予定	京都府京都文化博物館

令和 8（2026）年度教育普及事業

一般向け美術技法講座・教室

講 座 名	内 容	回数
館蔵品展 ワークショップ	館蔵品展の開催に合わせて、作品に親しむためのワークショップを開催する。 (古美術で2回を予定)	2
小学生対象講座	小学生を対象とした、しかけ絵本づくりを学ぶ企画。	1
中・高生対象講座	中・高生を対象とした、絵本づくりを学ぶ企画。	1
高校生以上対象講座	高校生以上の一般を対象に、しかけ絵本等様々な技法を学ぶ企画	2

子ども対象事業

講 座 名	内 容	回数
こどもアトリエ	3歳から小学生の家族対象。アーティストとともに親子で造形体験をする。	1 2

「さわる絵本」を活用した小・中学校向け貸出教材の作成

趣 旨 板橋区立美術館では、2020年頃よりイタリアで制作された「さわる絵本」（視覚に障害のある子どものために制作された触察絵本）の収集および調査を進めています。紙や布など多様な素材が使用されたイタリアのさわる絵本は、手でさわって鑑賞するものであり、目の見える／見えないにかかわらず、多くの子どもたちが楽しむことのできるものです。

2026年度の新規事業として、当館にある「さわる絵本」を活用し、小・中学校の授業等で使用することを目的とした貸出教材を作成します。素材集や展示台を兼ねた収納ボックスを新規で作成し、既存の「さわる絵本」や木製の触察ボードと合わせて貸出しします。主に小中学校への貸出・活用をめざしますが、図書館やイベントでの展示など、幅広い貸出・活用もめざします。

2026年4月より、監修・デザインを行う齋藤名穂氏と共に、実際に使用する学校の先生などを含めた勉強会を行います。9月頃より試作制作をはじめ、ユーザーテストなどを経たうえで、2027年3月までに納品し、2027年4月より活用を開始します。

制作期間 令和8(2026)年4月1日(水)～令和9(2027)年3月31日(水)

スケジュール 4月～7月：美術館、アーティスト、美術専科の教員などが集まったの勉強会・意見交換会を実施。
8月～10月：具体的な新規作成物の検討、試作制作等。
11月～3月：制作を進め、3月末までに納品。
2027年4月以降～：実際に貸出を行う。

制作物 貸出教材パッケージ「さわる移動ミュージアム(仮)」
新規で箱を4つ作成し、その中に「さわる絵本」や新規制作教材を入れる。(★が新規制作物)

- ・箱1 イタリアのさわる絵本(板橋区立美術館所有物から、10冊ほど想定)
- ・箱2 入選作品木製パネル(ボローニャ展過去入選作を木製パネルにしたもの、10枚ほど)
- ★箱3 箱型のさわる絵本
- ★箱4 素材キット(さまざまな感触の素材を楽しむもの。本形式)
- ★使い方冊子
- ★展示用説明パネル